

MIYAGI

まちづくりと 地域支え合い



CONTENTS

- 2 MIYAGIの今 29 東松島市
第2層協議体設置も視野に、丁寧に準備
- 3 MIYAGIの今 30 大衡村
“お宝”の発掘・見える化を推進
- 4 先進の地から〈15〉北海道弟子屈町
「お宝発見プロジェクト」が照らす体制整備の道筋
- 6-8 2017年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議の
活動報告

東松島市が2018年1月に開催し、意見交換した「地域支え合い研修会」(詳しくは2頁へ)

宮城県内外の
生活支援コーディネーターおよび協議体の
取り組みを発信しながら、
住民や専門職・関係機関の意識を高め、
最後まで住み慣れた地域で暮らし続ける
社会づくりを目指します。

vol.16
2018.5



の今 29

東松島市

東松島市 DATA

人口	40,025人 (2018年3月31日時点)
高齢化率	28.1%
新しい介護予防・日常生活支援総合事業への移行	2017年4月
生活支援体制整備事業の実施	2017年4月



第2層協議体設置も視野に、丁寧準備

東松島市では、2017年度から生活支援体制整備事業を市社会福祉協議会に委託して、第1層生活支援コーディネーターを1人、今年度から第2層生活支援コーディネーターを2人配置しました。日常生活圏域が3つあり、業務量や人的状況を勘案して、第1層コーディネーターが第2層の1つの圏域を担当しています。

同市社協の地域福祉専門員でもあるコーディネーターたちは、住民への個別支援に加え、地域のサロンなどに毎日足を運び、「芋づる式でいろいろな活動が見えてくる」と地域の支え合いを掘り起こします。集いの場などは社協だよりに掲載したり、マップ・リスト化して、商工会会員事

業所の出張サービスなどの情報とともに、「東松島市高齢者の生活を支える地域活動一覧表」で紹介しています。地域の活動などについて住民が意見交換をする「地域支え合い研修会」を開いたり、「支え合いについて学びたい」という住民の声に応えるべく、夕方や夜に開かれる、あちこちの自治会単位の集会に参加して、つながりのたいせつさなどを改めて説明しています。第2層コーディネーターの渡邊英人さんは、「地域の行事や会議などの場から住民の皆さんの関心を伺い、その延長として、支え合いについて一緒に考えていきたい」と語ります。



社協だより(左)と地域活動一覧表



支え合いについて住民に説明する生活支援コーディネーター

各まちづくり協議会内から推薦を受けた代表者など、合計19人で構成。仙台白百合女子大学准教授の志水田鶴子さんの講演などにより、支え合いや協議体のあり方について確認しました。さらに、今後の活動として、第1層協議体では、講演などを行うフォーラムの開催を計画中です。委員からの提案をもとに、地域での集いや見守りなどの取り組みをまちづくり協議会のエリアごとに1〜2組ずつ発表し、学び合うポスターセッションも予定しています。

また、第2層協議体も、状況に応じて可能な地域から立ち上げる予定です。その準備会として、活動や肩書きなどにとらわらず、さまざまな立場の人が気軽に参加できる話し合いの場を、今後まちづくり協議会のエリアごとに設けることを



市高齢障害支援課と市社会福祉協議会の皆さん(手前が生活支援コーディネーターの3人)

検討しています。

市高齢障害支援課では、「住民一人ひとりが望む普通の暮らしをどうやって丁寧に支えていくか」ということを考えながら、支援の裾野を広げてほしい」とコーディネーターの取り組みに期待しています。市と市社協は、従来からの地域福祉の推進の取り組みと連動させながら、その地域に合った生活支援サービスの創設とともに、住民同士が交流を深めることでより暮らしやすい生活となるよう、助け合い・支え合いを広げる仕組みづくりを努めています。

哲



の今

30

大衡村

DATA	
大衡村	
人口	5,768人(1,999世帯) (2018年3月末時点)
高齢化率	28.8% (2018年3月末時点)
新しい介護予防・日常生活支援総合事業への移行	2017年4月
生活支援体制整備事業の実施	2018年3月



大衡村は今年3月、「村生活支援体制整備事業実施要綱」を定め、第1層生活支援コーディネーターとして村健康福祉課の保健師、遠藤美紀さんを選任。これに先立つ1、2月には、同課が住民向けの「支え合い懇談会」を開いています。

「お宝」の発掘・見える化を推進

懇談会には、村内の全14行政区から計約60人が参加。8グループに分かれてグループワークを行い、お茶飲みやおすそ分けといった近所付き合いをはじめ、地域行事、住民自治、サロン、ボランティア、趣味・娯楽・スポーツ・教養サークルなど日常の暮らしのなかの交流や集いの場を抽出。これを「介護予防」「つながり」「生きがい」「見守り」「支え合い」といった視点で再評価し、『地域のお宝』と位置付けました。

遠藤さんは懇談会について、「回覧板を回すついでに声かけをして見守っている、といった話で『これもお宝よね』と盛り上がった話で。住民の暮らしのなかですでにある支え合いの実践を、むしろ私たちが学ぶ機会となった」と振り返ります。そのうえで、「ある程度定例的に開催できれば、これを事実上の協議体と位置付けることも可能ではないか。さらに、地区ごとにミニ懇談会を開けば、第2層協議体にもなり得る」との展望を示します。

今年度は懇談会を継続するほか、その成果を発表会などで「見える化」していくことにしています。

なお、第1層協議体は、既設の村介護保険運営委員会がその機能を兼ねる予定となっています。また、村は中学校区が

一つだけですが、日常生活圏は「行政区か、さらに小さい集落単位」（遠藤さん）。その実態を踏まえた2層圏域を想定し、きめ細かな体制整備を進めていく考えです。

こうした一連の動きに合わせて、村社会福祉協議会は、主幹級職員2人を体制整備担当とし、コーディネーターと密接に連携できるようにしました。

担当職員は、これまで高齢者・ボランティア団体の事務局業務やサロン活動などに携わってきた関内恵理子さんと、曾根淳子さん。

「体制整備は、社協が担ってきた」誰

もが暮らしやすい地域づくり」と重なる部分が多い。コーディネーターと連携することで、私たちの従来の取り組みを強化し、充実させることができる」（関内さん）。

当面は、懇談会で出された「お宝」をコーディネーターとともに取材、年4回発行の広報紙「おおひら社協だより」に連載するなど、住民活動の発掘と再評価、見える化に注力します。

住民・社協・行政の新たな協働が始まり、村の「お宝」が輝きを増しつつあります。

利



生活支援体制整備を担当する村健康福祉課と村社会福祉協議会の皆さん



第2回支え合い懇談会（2018年2月1日）

「お宝発見プロジェクト」が 照らす 体制整備の道筋

◎北海道弟子屈町



【弟子屈町】

北海道東部の内陸に位置し、総面積の6割以上が阿寒摩周国立公園内。摩周湖や屈斜路湖などの湖沼と森林が織りなす景観美や多様な動植物、豊富な温泉で知られる。2016年度の観光客入込数は91万人。住民主体の介護予防活動が盛んで、いきいき百歳体操、ガンバルーン体操、ふまねっと運動などを行う団体は26団体、参加者は計約260人で65歳以上人口の1割近くに達する（18年4月時点）。

「連携会議」で方向性示す

大型連休前の4月27日午後、弟子屈町公民館の会議室に生活支援体制整備事業の関係者4人が集まりました。「連携会議」を開くためです。



生活支援体制整備の連携会議。右奥が生活支援コーディネーター（2018年4月27日）

4人の顔ぶれは、第1層生活支援コーディネーターの藤原直美さん、町社会福祉協議会総務兼在宅福祉サービス係長で、第一層協議体委員長を務める佐藤康弘さん、町福祉課の課長補佐兼地域包括支援係長の加賀一義さん、同じく地域包括支援係主査で保健師の丹羽真弓さん。

連携会議は、文字どおりコーディネーターと社協、行政（地域包括支援センター担当）が密接に連携する目的で月1〜2回開かれます。意見・情報を出し合い、認識の共有を図りながら町としての体制整備の方向性を確認。必要に応じて修正を加え、それぞれの活動や協議体の

の運営に反映させます。

町社協の佐藤さんは、次のように説明します。「連携会議が体制整備を牽引していくというか、協議体と歩調を合わせつつ、地域づくりの方向性をリードしていく。私たちはその方向性を常に点検、検討している。協議体や地域づくりの介添人のようになればいいと思う」。

この日の連携会議は、今年度第1回目。前年度の振り返りと今後の体制整備の進め方、6月末ごろの開催を見込む年度初の第1層協議体の議題などを話し合いました。そこで、町が前年度実施した「お宝発見プロジェクト」の成果をどう生かし、継続・発展させるかが焦点の一つになりました。

プロジェクトは、日常的にお茶飲みやおすそ分けをする生活文化や、ちよっとした困りごとを近所同士で助け合って解消してしまう住民関係を地域踏査で発掘。それらを介護予防や社会的孤立の防止に役立つ『お宝』と位置付けます。さらに、その具体事例を冊子にまとめ、「お宝自慢発表会」を開催して『見える化』します。第1回発表会は3月30日、町の釧路圏摩周観光文化センターで開かれ、住民約180人が参加しました。

保健師の丹羽さんは、一連の取り組みを評してこう述べています。「お茶飲みや近所づき合いのなかで支え合っていること、それが高齢でも自宅暮らし続ける

北海道弟子屈町

DATA

人口	7,341人 (3,885世帯) ※2018年3月末時点
高齢化率	38.4% ※2018年3月末時点
新しい介護予防・日常生活支援総合事業への移行	2017年4月
生活支援体制整備事業の実施	2016年11月

のに大事だということを、住民はすでに感じ取っている。だから地域包括ケアの概念的な話より、実際にお茶飲みをして支え合っている人たちの事例のほうが聞いて腑に落ちる。プロジェクトの実施で、お茶飲みと体制整備の関連性について理解が促されたし、暮らしやすい地域づくりへの機運を高めることもできた」。

●サービスづくりからの転換

体制整備の開始当初、その方向性は今とは違っていました。「とにかく住民の困りごとを解決すべく、生活課題を抽出し、住民主体の新たなサービスを立ち上げようとした」(佐藤さん)。

体制整備は2016年11月、第1層の協議体結成と生活支援コーディネーターの配置で始まりまし。これに先立つ15年12月、16年7月、町と町社協が8回にわたって介護・福祉や地域お

こしの関係者を集め、勉強会を開いています。暮らしやすい地域の実現に「こんなのがあったらいいな」をテーマに意見を出し合い、住民ニーズを把握するためのアンケートを実施し、その結果から地域の生活課題を明らかにしていきました。

その流れを受けて体制整備がスタート、協議体は17年6月まで計3回開かれましたが、話し合いは足踏み状態を余儀なくされました。

生活支援コーディネーターの藤原さんは、当時をこう振り返ります。「こんなサービスがあればという話をしても結局、資金も人材もない、住民主体では無理ということで議論が停滞した。住民ニーズを洗い出して生活支援の新たなサービスを立ち上げるという発想にとらわれ過ぎていた」。

打開策として、連携会議でプロジェクトを立案しました。その骨子は「不足を探して穴埋めする」から「あるもの(お宝)を見つけて生かす」への転換です。

プロジェクトで制作された冊子に、90歳のひとり暮らし女性の記事が載っています。女性は地域のサロンや介護予防サークルに通う一方、日々畑仕事に精を出し、近所に野菜や手料理をおすそ分けし、ときには友人たちと買いものやお茶飲みなどを楽しみます。自分を取り巻く人の輪のなかで、ちょっととした困りごと、たとえば移動や買いもの、自宅の除雪な

どを解決しています。その暮らしのあり方がお宝というわけです。

「今年度以降もプロジェクトを継続し、地域に入ってお宝を発掘、見える化と周知を進めたい。協議体での議論は当面、お宝をどう守っていくかといった方向になると思う」(藤原さん)。

●既存の集いの場も「協議体」

お宝の発掘では、自治会・町内会をはじめ、老人クラブ、趣味・娯楽・スポーツ・教養サークル、各種サロン、さらには数人のお茶飲みまで小ささまざまな集いの場に入っていきます。

連携会議は、こうした集いの場を日常生活圏の協議体と見なす方針を示しています。「取材と並行して、お宝をたいせつにする地域づくりを話し合えるようにしたい」(藤原さん)。

同町は特に高齢住民の介護予防活動が盛んで、65歳以上人口の1割近くが何らかの介護予防サークルに所属しています。コーディネーターがそこに赴き、お宝

の説明と取材を行うことは、その場を小さな協議体に変える力があります。介護予防の向こう側にある住民同士の日常的な支え合いが垣間見え、介護予防活動が健康づくりだけでなく支え合う仲間づくりになることも判明します。その場に居合わせた人は、介護予防だけではない

サークル活動の意義と、日常の何気ない支え合いの価値を明確に意識します。こうした効果は、前年度のプロジェクトで明らかになっています。

町には2中学校区、5小学校区、63行政区がありますが、これらの区割りで第2層の圏域設定はしていません。第2層コーディネーターを配置する計画もありません。「将来的にコーディネーターを増員することはあり得るが、圏域で役割を

分担する必要はないと考えている」(丹羽さん)。「層や地域にこだわらず活動したい。コーディネーターが複数になる場合は、違う得意分野を持っている人がいい。介護の経験があるとか、生涯学習の分野に明るいとか」(藤原さん)。

藤原さん自身は、夫とデザイン事務所を経営する傍ら、観光を基軸にした地域おこしや高齢・障害者の観光サポート、障害者と健常者がともに楽しめるイベントの企画・運営などを手がけています。自らを「普通の主婦」と言いますが、周囲からは「地域づくりの活動家」と呼ばれています。

同町の体制整備の最初の成果は、行政・社協・活動家の連携を築いたことでしょう。続いて、試行錯誤の末プロジェクトを生み出し、お宝に光を当てました。その輝きが、最終目標である「誰もが暮らしやすい地域」への道のりを優しく照らしているようです。

利

生活支援推進連絡会議の活動報告

発足させた「宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議」の昨年度の活動を報告します。

1 連絡会議の開催 2回

普及啓発や情報交換を行うため、行政、職能団体及び事業者団体等で構成される連絡会議を開催しました。



	日時	開催場所	出席人数	内容
第1回	6月9日(金) 13:00~14:15	TKP ガーデンシティ仙台 (ホール30A)	147人	<ul style="list-style-type: none"> ○2017年度事業計画説明 ○基調講演 「地域包括ケアを展開するするための地域づくりの重要性」 講師 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員会委員長 東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 ○話題提供 「移動支援の現状について」 講師 特定非営利活動法人 移動サービスネットワークみやぎ 理事長 坂井 正義 氏
第2回	2月8日(木) 13:00~15:00	ホテル白萩 (萩の間)	36人	<ul style="list-style-type: none"> ○2017年度活動経過報告 ○2018年度事業概要説明 ○情報交換

2 セミナーの開催 1回

介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の円滑な実施を推進するため、セミナーを開催しました。

	日時	開催場所	出席人数	内容
第1回 (本紙第15号に報告記事)	1月26日(金) 10:20~16:50	仙台市太白区 文化センター (楽楽ホール)	539人	<p>第2回 宮城発これからの福祉を考える全国セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1部 被災者支援から地域づくりへ 【事例発表とディスカッション】 ～被災者支援から地域づくりへどのように展開されてきたのか～ ○第2部 10年後、20年後を見据えた地域づくり 【その1 県内市町村の取組】 ～県内35市町村、全部お見せします。市町村の取組を映像で紹介!～ 【その2 事例紹介】 10年後、20年後を見据えた地域づくり ～支え合いの体制づくりを継続・発展させていくために～ ○第3部 地域づくりを支援する国・県の取組 【ディスカッション】 ～市町村を支援する県の役割と10年後、20年後を見据えた今後の展開について～

3 運営委員会 12回

連絡会議の進行管理等について審議し決定するため、毎月1回開催しました。

日時	開催場所	出席人数	内容
4月13日(木) 10月19日(木)	県庁保健福祉部会議室 仙台ビジネスホテル TKPガーデンシティ仙台 ホテル白萩	運営委員 13人ほか	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村訪問状況について ○アドバイザー(運営委員)派遣状況について ○生活支援コーディネーター養成研修及び応用研修について ○情報紙について ○情報交換会について ○セミナーについて 等
5月11日(木) 11月16日(木)			
6月 9日(金) 12月14日(木)			
7月20日(木) 1月18日(木)			
8月17日(水) 2月 8日(木)			
9月28日(木) 3月15日(木)			



2017年度 宮城県地域支え合い

宮城県内の地域支え合いと生活支援の取り組みを推進するため、2015年10月に県が

4

市町村への情報提供及び助言

(1) 県内市町村の実態を把握するとともに、情報提供や助言を行うため、アドバイザーを派遣しました。 17市町35回



(2) 市町村の現状・実態把握のため、アドバイザー同伴で訪問・ヒアリングを実施しました。 1町1回

(3) 市町村の現状・実態把握のため、連絡会議事務局が訪問・ヒアリングを実施しました。 35市町村71回

派遣月(回数)	派遣先	内容
5月(1)	美里町	講演
6月(1)	仙台市泉区	講演
7月(5)	塩竈市	講演
	松島町	講演
	丸森町	講演
	南三陸町	講演
8月(2)	栗原市	講演/演習
	女川町	講演/講評
9月(2)	涌谷町	講演
	塩竈市	助言
10月(3)	仙台市青葉区	講演
	巨理町	講演
11月(4)	栗原市	演習/助言
	仙台市泉区	講演/演習
	栗原市	講演/演習
	松島町	講演/演習
12月(4)	仙台市泉区	講演
	角田市	講演/演習
	大河原町	演習
	仙台市泉区	講演
1月(3)	栗原市	講演
	山元町	助言
	多賀城市	講演
2月(6)	川崎町	講演
	栗原市	講演
	仙台市泉区	講演/演習
	仙台市泉区	講評/助言
	大郷町	講演
	丸森町	講演/演習
3月(4)	登米市	講演/講評
	塩竈市	講評/助言
	登米市	講演/講評
	美里町	講演/講評
	仙台市泉区	講演

訪問月	訪問先	内容
6月(1)	柴田町	助言

訪問月	訪問先	内容
通年	35市町村	ヒアリング

5

情報交換会の開催 全2回

県内高齢者圏域ごとを基本に、生活支援コーディネーターの活動や地域包括ケアを展開するための地域づくりについて、運営委員・行政職員・生活支援コーディネーター一任命(予定含む)者等とともに意見交換を行いました。



	実施日	圏域	開催場所(アドバイザー派遣)	出席人数	内容
第1回	6月 9日(金)	全圏域	TKPガーデンシティ仙台(運営委員10人)	135人	<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨説明 「多様な主体が参画した地域の支え合い体制づくりを推進するために」 ○情報交換(グループワーク) 事前調査結果をもとに、新しい総合事業の実施状況や生活支援体制整備の進捗状況、協議体と生活支援コーディネーターの役割、地域課題と生活支援の充実に向けた取り組み、関係機関との連携について意見交換を行いました。 ○発表・講評 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員会委員
第2回	10月26日(木)	仙南 仙台(岩沼)	宮城県大河原合同庁舎(運営委員5人)	57人	
	10月27日(金)	仙台(塩竈) 仙台(黒川)	宮城県仙台合同庁舎(運営委員5人)	80人	
	11月 9日(木)	石巻 登米 大崎・栗原 気仙沼・本吉	宮城県登米合同庁舎(運営委員4人)	79人	

3段階の基本研修と応用講座を実施し、基本研修871人、応用講座477人の計1,348人が受講しました。

基本研修	会場	日程	受講者数
研修1 初級研修	白石会場:白石市いきいきプラザ	5月19日(金)	46人
	仙台会場:宮城県本町第三分庁舎	6月1日(木)	75人
	大崎会場:宮城県大崎合同庁舎	6月2日(金)	62人
	東松島会場:矢本東市民センター	6月22日(木)	70人
	気仙沼会場:気仙沼市保健福祉事務所	6月23日(金)	105人
研修1-2「地域福祉コーディネート基礎・実践研修」受講のための事前研修	仙台会場:エスポールみやぎ	7月11日(火)~12日(水)	70人
	仙台会場:仙都会館	11月14日(火)~15日(水)	61人
研修2 地域福祉コーディネート基礎・実践研修	仙台会場:仙都会館	8月9日(水)~10日(木)	69人
	仙台会場:エスポールみやぎ	2月5日(月)~6日(火)	88人
研修3 生活支援コーディネート基礎・実践研修	仙台会場:宮城県自治会館	9月7日(木)~8日(金)	58人
	仙台会場:宮城県自治会館	3月8日(木)~9日(金)	82人
特別研修 生活支援コーディネーターの上長の役割と実際	仙台会場:仙都会館	1月18日(木)	23人

応用講座	会場	日程	受講者数
講座1 地域支え合い活動の発見の仕方・広げ方	仙台会場:宮城県自治会館	7月4日(火)	45人
	大崎会場:大崎建設産業会館	7月25日(火)	14人
講座◎実践編 地域の元気達人養成講座	川崎会場:川崎健康福祉センター	9月12日(火)	33人
	仙台会場:宮城県自治会館	9月13日(火)	47人
	栗原会場:栗原市市民活動支援センター	10月3日(火)	21人
講座2 地域福祉コーディネート中堅研修	仙台会場:宮城県自治会館	2月26日(月)~27日(火)	34人
講座3 生活支援コーディネーターによる実践報告と事例検討	仙台会場:宮城県自治会館	8月17日(木)	34人
講座4 協議体の立ち上げと運営の方法	仙台会場:エスポールみやぎ	11月2日(木)	37人
講座5 有償サービスの立ち上げと運営の方法	仙台会場:仙都会館	11月16日(木)	30人
講座6 住民主体で進める支え合いの地域づくり	西宮市研修 仙台会場:仙都会館	12月15日(金)	40人
	宝塚市研修 仙台会場:仙都会館	1月16日(火)	47人
	中津市研修 仙台会場:エスポールみやぎ	2月14日(水)	32人
講座7 生活支援コーディネーターの実践交流	仙台会場:エスポールみやぎ	11月30日(木)	35人
講座8 地域の支え合いの発見と活性のための体験型講座	大和町で実施 1月12日大和町「おらほのお宝発表会」 会場:まほろばホール 参加者:460人/内町外参加者82人	第1回 8月29日(火) 第2回 10月4日(水) 第3回 10月30日(月) 第4回 1月12日(金)	28人



★講座8のプロセスを動画で見ることができます。
宮城県大和町発!「宝物さがしから発表会までの運営手法」を学ぶ!
<https://youtu.be/5P-Btl5szqw>



情報紙「MIYAGIまちづくりと地域支え合い」の発行

宮城県内外の生活支援コーディネーター及び協議体の取り組みを発信する情報紙を隔月で発行したほか、事業説明パンフレット(改訂版)を作成して配布しました。



その他

- (1) 各種団体と連携・協力し、市町村の介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な実施に務めました。
- (2) 研修等への参加等情報収集・情報提供に務めました。